

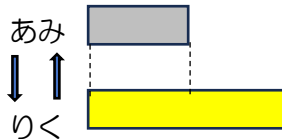
算 数 通 信

テーマ：どう指導する「〇〇は、●●の何倍」

第 66 号に関連しますが、「〇〇は、●●の何倍です」という 2 つの量の関係の表し方は、5 年生で「割合＝比べられる量÷もとにする量」でまとめられます。算数は系統性の強い教科なので、教科書のどこかに、2 つの量の関係を捉えるヒントが示されていると考えます。

2 年生「**⑩** 分数」の「**2** ばいと分数」の問題です。

1 2 人のテープの長さをくらべましょう。



① りくさんのテープの長さは、あみさんのテープの長さの何ばいですか。

② あみさんのテープの長さは、りくさんのテープの長さの何ばいですか。

「〇〇は、●●の何倍」のとき、2 つの量の関係をどのように把握できるのかということで、3 つに分けてみました。

1 つ目 文章で、関係がわかる。極少数。

2 つ目 図を見て、わかる。(図がないと、わからない、わかりにくい。)

3 つ目 図があっても、わからない、わかりにくい。

4 つ目 よく行う指導として、『の』がある方がもとにする長さ」というものがありますが、あまり効果的ではなかったので、私は止めました。

さて、2 年生教科書(P86)には、上の問題に対して、次の「」が添えられています。

- 「自分のテープをつかって、あいてのテープの長さをあらわしてみよう。」
- ①の問いに対しては、「りくさんのテープの長さは、わたしのテープの2つ分の長さだから・・・。」
- ②の問いに対しては、「ぼくのテープを半分にすると、あみさんのテープと同じ長さに・・・。」

この文章はどういう意味なのでしょう？(意味を考えないと、指導につながりません。)

2 つの量を「自分と相手という関係でみる」ということを、示唆しているのでしょう。つまり、「自分のテープ」、「相手のテープ」でみるということです。自分をもとにして、相手と比べるとも言えます。

それでは、「りくさんのテープの長さは、あみさんのテープの長さの何ばいですか。」の文では、「自分のテープはどちらになりますか?」。「りくさんのテープの長さは、自分のテープの長さの何倍ですか。」と置き換えられます。これを 2 年、3 年、4 年までは継続すれば、「もとにする量」と「比べられる量」の関係が、感覚的に捉えられるのではないかと思います。